



## 薬剤関連の看護業務を効率化

— 薬剤師と看護師が協働した取り組み —

### トヨタ自動車株式会社 トヨタ記念病院

愛知県豊田市  
527床／職員数1,187名（うち看護職員数630名）



#### 課題・背景

- ① 看護師の薬剤のミキシングが安全面・感染面で不安  
○ ナースコールや電話等による中断作業や並行作業があり集中して薬剤の確認ができない、注射準備室が狭溢で人の出入りが頻回である
- ② ミキシングによる看護師の身体的・精神的負担  
○ 中断作業があり、確認行為を繰り返すため、集中して確認ができない
- ③ 点滴交換により患者の睡眠を妨害  
○ 点滴の一日の開始とIN/OUTの締め切り時間が0:00であり、交換の度に患者が覚醒する
- ④ 看護師による夜間薬剤搬送の課題が大きい（看護師の負担、安全面）

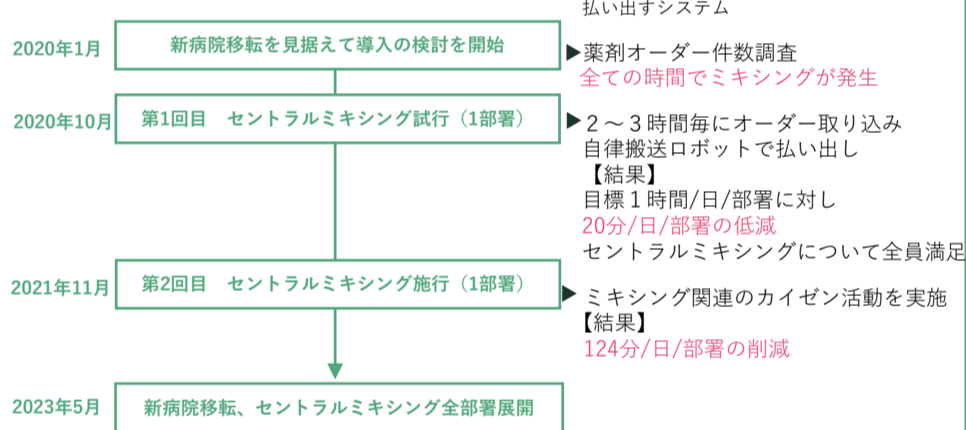
#### 目的・目標

- ① 薬剤師と看護師が協働して、看護師の薬剤業務のカイゼン\*に取り組み、
  - ② 看護師が患者に向き合う時間を捻出する
- ▶ 看護師のミキシングのカイゼン、及び薬剤師へタスクシェアなどの実現

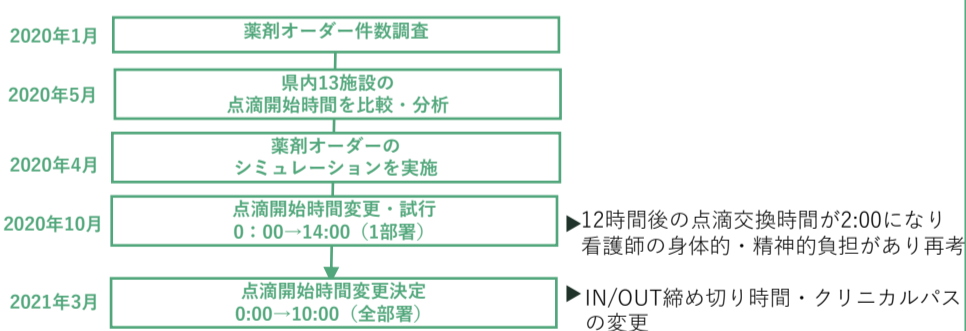
カイゼン\*: 現状をさらによくするために継続して実践する活動のこと

#### 取り組み内容

##### ① セントラルミキシング※の導入



##### ② 一日の点滴開始時間を変更



##### ③ 夜間の薬剤搬送を自律搬送ロボットに移行

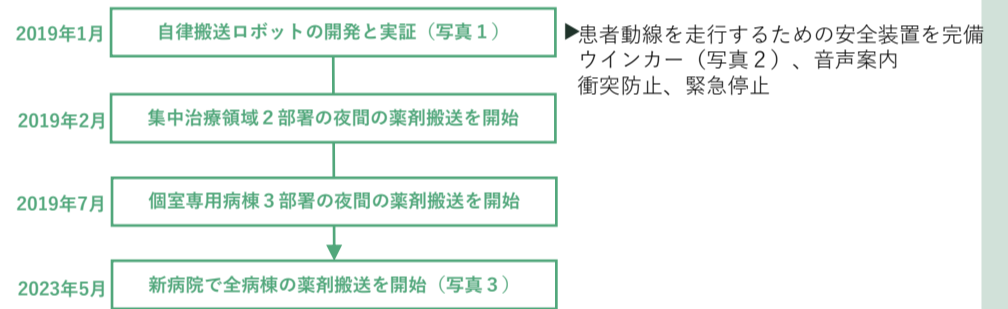


写真1 2019年ロボット



写真2 ウィンカー 音声案内、ウィンカー、衝突防止、緊急停止



写真3 2023年ロボット

#### 成果・効果

##### ① 業務量の減少・削減

###### ○ 薬剤科によるセントラルミキシング

試行1部署におけるミキシングに係る時間

導入前	導入後
150分/日/部署	約26分/日/部署

約124分/日/部署削減

###### ○ 夜間における薬剤のロボット搬入の導入

薬剤搬送用エレベーターがない5部署において 看護師が病棟から薬剤科まで往復した場合の実測値

導入前	導入後
20分/日	0分
10分/日 × 2部署（集中治療領域）	0分
21分/日	0分
7分/日 × 3部署（個室専用病棟）	0分

41分/日/5部署削減

##### ② 看護師のカイゼン活動の推進

##### ③ 看護師の身体的・精神的負担の軽減

導入後、再び看護師へのヒアリングを実施

薬剤科によるセントラルミキシングについて  
・ 看護師は、全員がセントラルミキシングを導入してよかったと回答  
・ 薬剤師は、専門性を発揮できるタスク・シフト/シェアであると回答

▶ 中断作業による確認の緊張感が緩和  
安全面・感染面の問題の解決

夜間の点滴交換時間について

・ 看護師が夜間の点滴交換が減ったと実感 ▶ 患者の睡眠の確保

薬剤搬送の自律搬送ロボットについて

・ 看護師全員がロボットを導入してよかったと回答

▶ 病棟から看護師が離れない環境の確保

##### ④ 看護師の満足度向上

・ 看護師本来の仕事が増えた実感  
・ 看護師の離職率の低下 10.3%（2017年度）▶ 7.2%（2022年度）

##### ⑤ 患者の安楽を生まだすことへの貢献

##### ⑥ 薬剤師との連携強化